



とり 鳥はどうしてでんせん 電線にとまってもへいき 平気なの

でんき なが 電気は流れやすいほうにながる

でんき 電気は、ものによってながる 流れやすいものと、ながる 流れにくいものがあります。ゴムはほとんどでんき 電気を通しません。でんせん 電線のきんぞく 金属は、でんき 電気を通しやすいものがえらばれています。

また、でんき 電気は、みず たか 水が高いところから、ひく 低いところへながる のと同じように、でんあつ たか 電圧の高いところから、ひく 低いところへながります。でんせん 電線のどこかがき 切れていると、でんき 電気はまったくながりません。でんき 電気の通り道がつかないなければ、でんき 電気は流れないのです。

でんき とお みち 電気の通り道ができなければへいき 平気

でんせん 電線にとまってもへいき 平気なのか、ということは、かんでん 感電しないのかというぎもん 疑問ですね。

1 本のこうあつせん 高圧線にとり 鳥が2本足でとまると、とり からだ 鳥の体よりでんせん 電線のほうがでんき 電気は流れやすいので、でんき 電気はそのままでんせん 電線の中をながります。だから、とり 鳥はまったくへいき 平気です。とり からだ いちぶ 鳥の体の一部が別なでんせん 電線にくっついていたり、かたあし 片足が、じめん 地面にたれ下がったはりかね 針金をつかんでいたりすると、でんき 電気のながる 道ができるため、こうあつでんき 高圧電気がとり からだ 鳥の体を通り、かんでんし 感電死してしまいます。

じめん などとでんき 電気のながる 流れができると、きけん 危険

でんせん 電線は、ふつうはビニールなどでしっかりおおわれていて、それにさわってもかんでん 感電しないようになっています。きけん 危険なのはこうあつせん 高圧線で、だ だ せん たか 電圧の電気がながる 流れているので、たこがひ 引っかかったときなどは、でんりょくがいしゃ 電力会社の人以外は、さわってはいけないといわれています。これは、たこのいと 糸で、でんあつ ひく 電圧の低いじめん 地面との間に、でんき とお みち 電気の通り道ができ、おほい 大きな電気がしゅん間的にながるので、たこ糸をにぎっていたにんげん 人間は、ショック死することもあるからです。（監修・今泉 忠明）

